

## 第 12 回日本ホスピス・在宅ケア研究会 特別企画 3「今、看取りを考える」

二日目 D (第 3・4 会場) 13:30 ~ 16:00

### 企画趣意

本企画「今、看取りを考える」の目的は、(1)「タナトロジー研究会」(仙台市)の試みを紹介するとともに、(2)医療者と非医療者との壁を越えて「看取り」の本質について討議することにある。

(1)人は誰しも、生まれ落ち、やがて老い、病を得て死んでいく。その限りで「死」は、医療者だけの問題ではない。このような共通認識のもと、次代を拓く新しい「看取りの文化」を共に創造すべく、2003年3月に「タナトロジー研究会」は発足した。同研究会はそれ以来、月2回のペースで開催されてきた。「看取りの文化」を新たに創造するためには、実際に人の死を看取っている現場スタッフの経験に耳を傾けつつ、哲学、宗教学、社会学、心理学といった人文諸科学の学的成果を視野に収める必要がある。こうした理念のもと研究会には、在宅ホスピスの新たなモデル作りに取り組む岡部医院(宮城県名取市)のスタッフ、そしてまた大学の若手研究者が結集し、具体的な事例を囲んで活発な議論を繰り広げている。本企画では、まずこの壮大な実験を紹介することにしたい。

(2)「看取り」とは何だろうか。「看取り」は、はたして「医療」の枠組みのうちに収まるものなのか。否、ターミナル期の在宅ケアの実状に照らせば、「医療」よりも「福祉」的な関わり合いの方が、患者の生活全体のうちでより重要な役割を担っているのではないだろうか。それにもかかわらずターミナルケアに従事しうる福祉職の人材育成は、わが国の現状を見る限り、成功しているとはいえない。それを踏まえて本企画では、岡部医院の二人のヘルパーがここ一年で携わった事例の検討を通して、「看取りとは何か」という大きな問題に迫っていきたい。

医療現場に囲い込まれてきた「看取り」を広く社会に開くことによって、「死」を我々一人ひとりの問題として捉えなおす一助となれば、本企画の試みは果たされたといえる。

## プログラム予定

### 時間帯

9月12日(日) 13:30~16:00(2時間半)

D(第3・4会場)

### プログラム

#### 第1部 「タナトロジー研究会」というプロジェクト

1. 今、看取りを考える 「タナトロジー研究会」の目指すもの【10分】

岡部健(岡部医院・医師):ビデオ出演

2. タナトロジー研究会のこれまでの歩み【10分】

竹之内裕文(東北大学・哲学)

理念、活動の歩み(参加者、テーマ)、成果と課題

#### 第2部 実演「タナトロジー研究会」

3. 介護スタッフからみた看取り【40分】

太田静・太田旭(岡部医院・ホームヘルパー)

\*\*\*\*\*トイレ休憩5分(実質10分)\*\*\*\*\*

4. 公開討論会【60分壇上+20分フロア】

討論者・司会者・事例提示者は壇上に

## 出演者

### 事例提供者

太田旭（岡部医院・ホームヘルパー）

太田静（岡部医院・ホームヘルパー）

### 司会

田代志門（東北大学・社会学）

### 討論者

齋藤雄一（岡部医院・医師）

成田憲史（岡部医院・SW）

竹之内裕文（東北大学・哲学）

笠井均（東北大学・化学）

篠崎寛子（東北大学・宗教学）